

常石学区

地域まちづくり計画



地域づくり事業（西組自治会）

目次

1. 学区の概要	P.2～3
2. まちづくりの基本理念	P.4
3. 学区の現状と課題	P.5～6
4. まちづくり事業の内容	P.7～8
5. 2014年（平成26年）度まちづくり事業の実施内容	P.9
6. まちづくり計画の推進体制	P.10
7. 資料：アンケート調査の結果 （地震・津波に関するアンケート）	P.11～17

1. 学区の概要

常石学区は後方に眺洋山，東山を背負い，前方には瀬戸内海が広がり，その間の東西に延びる狭い土地に住宅と僅かな耕地がある地域で，学区の境に丘陵が突出して陸路が途絶えていた万葉の時代から舟の往来が盛んに行われていたまちとして賑わい，由来や伝説など多く残されています。

海への進出に活路を開き，1900年(明治30年代)には造船業を興した神原勝太郎さんが持ち前の精進努力によって幾多の困難を乗り越え，木造船の修理や建造を行なう造船所を併設し，地域の振興と発展に貢献し今日に至っています。

また，常石に古くからある習慣で，家の新築に際し，近所の人々が舟で運ばれてきた瓦を工事現場まで天平棒で運び込む奉仕活動・相互扶助のことを「一荷合力(いっかこうろく)」と呼んでいました。1906年(明治39年)の新聞「常石時報」では，青年団の生みの親，山本瀧之助が「一荷合力(いっかこうろく)の心をもって青年会のためにつくしてはいかがでしょう」と記事を書いています。当時から今日までこの奉仕活動の精神は活かされ，2003年(平成15年)6月2日「沼隈町マイタウンづくり推進事業指定地域」(第17号)として西組，中組の地域連携による活動を記念し一荷合力の目標を掲示板に掲げました。奉仕活動に不参加を決め込む人々を少なくする運動の一環として相互扶助の精神は今も引き継がれ，地域住民主体の地域づくりとして取り組まれています。今日，福山市が提唱している「協働のまちづくり」の精神も実は，この「一荷合力」に由来しているといわれています。

さらに瀧之助は常石の小学校でも教育者として勤め，夜には青年を集めては，「一荷合力」「己に克てよ」の具体例を示して講習していました。この「己に克てよ」が今日では「自分に勝とう」という言葉で常石小学校の教育目標の一つになって児童たちは頑張っています。



2005年(平成17年)福山市と旧沼隈町との合併を機に、学区自治会連合会は“元気丸常石”として、人間味あふれた地域づくりをめざして漕ぎ出しました。「自らの学区は地域住民の英知を集めてつくろう」を合い言葉に、先ず自治会連合会、常石学区まちづくり推進委員会を立ち上げ、福祉を高める会、公衆衛生委員会、交通安全協会常石支部、常石学区自主防災協議会、体育会と次々に組織づくりをする一方、ツネイシホールディングス株式会社(造船所)をはじめ、地元企業との連携を進めています。

現在の常石学区は9自治会(町内会)からなり、学区内には造船所の社宅や寮も数多く存在し、中でも開谷(二)自治会はこの企業の社宅のみで構成された約110世帯からなっており、このような世帯は学区全体で約500世帯程度に上ります。

こうした地域事情から、住民の転入・転出に関わる異動も頻繁で、2013年(平成25年)4月1日現在の学区の総世帯数は1,106世帯(総人口2,170人)ですが、自治会加入世帯数は約498世帯にとどまり、自治会加入率も50%を下回っています。



進水式



長寿を祝うスカットボール大会



新成人を祝う会

2. まちづくりの基本理念

福山市が2006年(平成18年)に、市制施行100周年に向けた新たなまちづくりの指針として第四次福山市総合計画基本構想を策定し、「福山市協働のまちづくり推進事業」がスタートしました。

常石学区は、まちづくりの基本理念と将来都市像やこれを実現するための基本目標などを定めた「第四次福山市総合計画・後期基本計画」〈2012年度(平成24年度)～2016年度(平成28年度)〉に従い、昔から常石地区にある「一荷合力」の精神を継承しつつ、一人ひとりが大切にされ、みんなで楽しく幸せに暮らし続けられる住民主体のまちづくりを推進します。

「人権文化が根付いた地域社会」を実現するため、「一人ひとりの人権が大切にされ、みんなが輝くまちづくりを展開しよう」を基本理念として、学区全体で企画・取り組みを実施します。

また、インターネットの掲示板等による差別書き込みや戸籍謄本などの不正な入手、老人や子どもに対する虐待、性差別、DVなど昨今、社会的な解決を見ないものがあります。そうした課題もまちづくりの基底にすえながら、いつまでも生きがいを持って笑顔で暮らしていくことのできるまちづくりを目指します。

更に安心・安全で快適な生活環境を作るために、住民一人ひとりが防犯・防災・交通安全等の備えをしっかりと行うことが大切です。

地域の連携によるしくみづくりや環境整備が重要で、そのための情報発信や諸施策を実施し、安心して暮らしていけるまちづくりを目指します。



さつまいも作り



子どもたちの育てた米で餅つき



子ども講座（さをり織り）



国際交流

3. 学区の現状と課題

まちづくりの基本理念を踏まえ学区の現状を考察し、課題を掘り起こし、その課題解決に向け検討をする必要があります。

公民館を拠点とし、協働のまちづくり、地域まちづくりにおいて、地域の皆さんと手を取り合った住みよいまちづくりを推進し、地域全般へ諸施策の浸透を図りたいものです。

常石学区には世界に飛躍する造船会社があり、その企業に関連した外国人との接触が日常的にあり、過去多くの外国籍市民との言葉や習慣、文化の違いなどから、行き違いやトラブルの起きやすい状況がありました。

このような状況の問題解決のため、小学校児童と弥勒の里国際文化学院日本語学校の研修生との出会いを図り交流を続けています。5、6年児童と研修生たちが自国の自慢料理を作って試食したり、ゲームやスポーツを通じて会話を楽しんだりしています。

また住民学習会では、テーマを「外国人を理解して行く～つながるからひろげていく～」を掲げて「一人ひとりの意識を高め人権文化が根付く地域社会を実現しよう」を基本におきました。そのほか（財）人権教育啓発推進センターのDVDの利活用もしています。

学区民大学においては、人権文化に加えて新たに創り出すという趣旨で「あなたが創る生涯学習社会」をメインテーマとし地域活動・地域福祉の発展をめざし、「まず用意、そして参加、一人ひとりがまちづくり」を日々実践しています。これらの具体例が示すように、全ての基底に人権文化のまちづくりを設定し進めています。

次に、安心・安全で快適な生活環境について学区内は平地が少なく坂道の多い地形のため、日常生活で不便なことがみうけられます。学区内の商店は他地区の大型店に押され減少しつつあり、日常の食料品、雑貨、その他生活必需品を近場で求めることが困難な状況です。バイクや車の免許がない人、高齢者等は不便・住みにくさを一層強いられています。

人の定着・人口の動態についても活動できる土地が少ないうえ、土地は先祖からのもので譲るわけにはいかないといったこと等により、学区外に転出している状況であります。

そんな中、小学校の児童数は少しずつ減少しています。要因はいろいろ挙げられますが、児童達の住みやすい、住んでよかったと思え、そして児童の健全育成に資する地域づくり・まちづくりの施策を進めなければなりません。

たとえば、「放課後子ども教室」は、1日1時間で週2回しかなく、共働きの家庭では子どもの居場所づくりとしては不十分と捉えています。就労などによ

り保護者が昼間家庭にいない児童に対して設置される「放課後児童クラブ」の制度をハード・ソフト両面において質的向上・拡充を図ることが必要と思えます。

防災面（地震・津波・土砂崩れなどの自然災害に対する備え）では学区で実施したアンケート調査によると認識の甘さが散見されます。

東日本大震災が発生して9ヶ月後にNHKが行った世論調査によると、あの震災を目の当たりにしたあとでさえ地震対策は「何もしていない」との回答が多く、また「今あなたの住む町で巨大地震が起きると、どれだけひどい被害が出るか」というビデオを制作して見てもらったところ、見た直後は「対策しなきゃ」という気持ちが一様に高まったが、実際に何らかの対策をした人は12人中3人という結果でした。

この世論調査等からいえることは「人間は自分の命を脅かす」情報を与えられても、身を守る行動には繋がらないということ。人間は自らの行動を高めるために、自分が死ぬ姿をうまく想像することができない特性をもっており、そのために地震の被害の情報を与えられても、それを自分のこととして、うまく認識できないのです。怖い映像を見た直後は対策の必要性を感じても、数日後には、その意識が薄れてしまうのは、「楽観バイアス」という人間特有の心理作用の影響と考えられます。

また、地震発生の瞬間に命を守る対策であるはずの「家具・家電の転倒防止」「住宅の耐震化」が「避難所の把握」や「非常持ち出し袋の準備」等の地震対策と比べて、大きく遅れをとっていることが分かったのです。阪神淡路大震災においては「家屋・家具の下敷き」となり亡くなった方は死因全体の8割にのぼりました。専門家によると震災対策の最優先は「家具・家電の転倒防止」住宅の耐震化」その次に「備蓄」とされています。

災害情報を得る手段はいろいろあり、福山市の設置している防災行政無線もその一つですが、聞こえる範囲が学区全域をカバーしていない現状があります。

また、JA福山市が受け継いだ旧沼隈町の有線放送も廃止されます。いち早く情報を得、素早い行動が必須である非常時を思うと覚束ないことです。住民一人ひとりが災害への備えをしっかりと行うとともに、地域の連携によるしくみづくりや環境整備が重要です。常石学区ではアンケート調査結果を踏まえ、防災対策や情報の発信などを行い安心して暮らしていけるよう積極的に取り組みます。

「人権文化のまちづくり」「安心・安全まちづくり」に加えて「ふれあいまちづくり」も同じ位置付けとして諸施策を実施することとします。

奉仕活動、相互扶助の精神である「一荷合力」に象徴された常石学区では、地域住民が一丸となり「地域まちづくり」を推進していきます。

4. まちづくり事業の内容（分野別）

※短期…1～2年 中期…3～4年 長期…5年以上

分野	事業内容	達成期間		
		短期	中期	長期
安心・安全なまちづくり	◆学区安心・安全活動	○		○
	①安心安全パトロール		○	○
	②防犯キャンペーン		○	○
	③交通安全対策		○	
	◆各種団体で子ども・老人を守る活動	○		○
	①110番の家確認活動	○		
	②学区見守り活動の継続		○	○
	③危険個所の改善	○	○	
	④一人暮らし老人の見守り活動	○		○
	◆自主防災活動	○		○
	①ハザードマップの見直し	○	○	○
	②防災・地震津波避難訓練	○	○	○
	③災害時非常用品の拡充	○	○	○
人権文化のまちづくり	◆地域福祉活動			○
	①ふれあいいいきサロン・ニコニコサロン活動	○		○
	②お出かけ支援事業の推進	○		○
	③地域交流サロン開設	○		○
	④人・まち・ふくしフェスタの支援	○		○
	◆福山市人権文化のまちづくり	○		○
	①人権大学をはじめとする講演会の参加	○		
	②学区人権教育啓発推進協議会活動支援	○		○
	③人権文化講座の開設及び日本語学校との連携	○	○	○
	④住民学習会の推進	○		○
	⑤小学校児童の米づくり芋づくり支援	○	○	○

	⑥学校・地域の連携活動の推進	○	○	○
	⑦小学校児童用図書への支援活動など	○	○	○
ふれあいまちづくり	①ふれあいまつり推進	○	○	○
	②さをり織り講座の充実	○		○
	③ぬまくま探鳥会の活動支援	○		○
	④ふれあい料理教室の充実	○	○	○
	⑤トライウオークの内容充実	○		○
	⑥弥勒の里国際学院日本語学校と常石小学校の交流支援	○	○	○
まちづくり推進体制	①学区自治会連合会の推進	○		○
	②学区民大学の講座新設	○	○	○
	③加盟団体との連携	○		○
	④次世代育成活動	○	○	○
	⑤ご長寿を祝う実行委員会等「…委員会」の体制検討	○		○
	⑥サークル活動等の充実支援	○	○	○
	⑦ぬまくまプラザとの連携	○		○

5. 2014年度(平成26年度)まちづくり事業の実施内容

○学区一斉の津波の訓練について

日 時 2014年(平成26年)5月11日(日) 10:00~

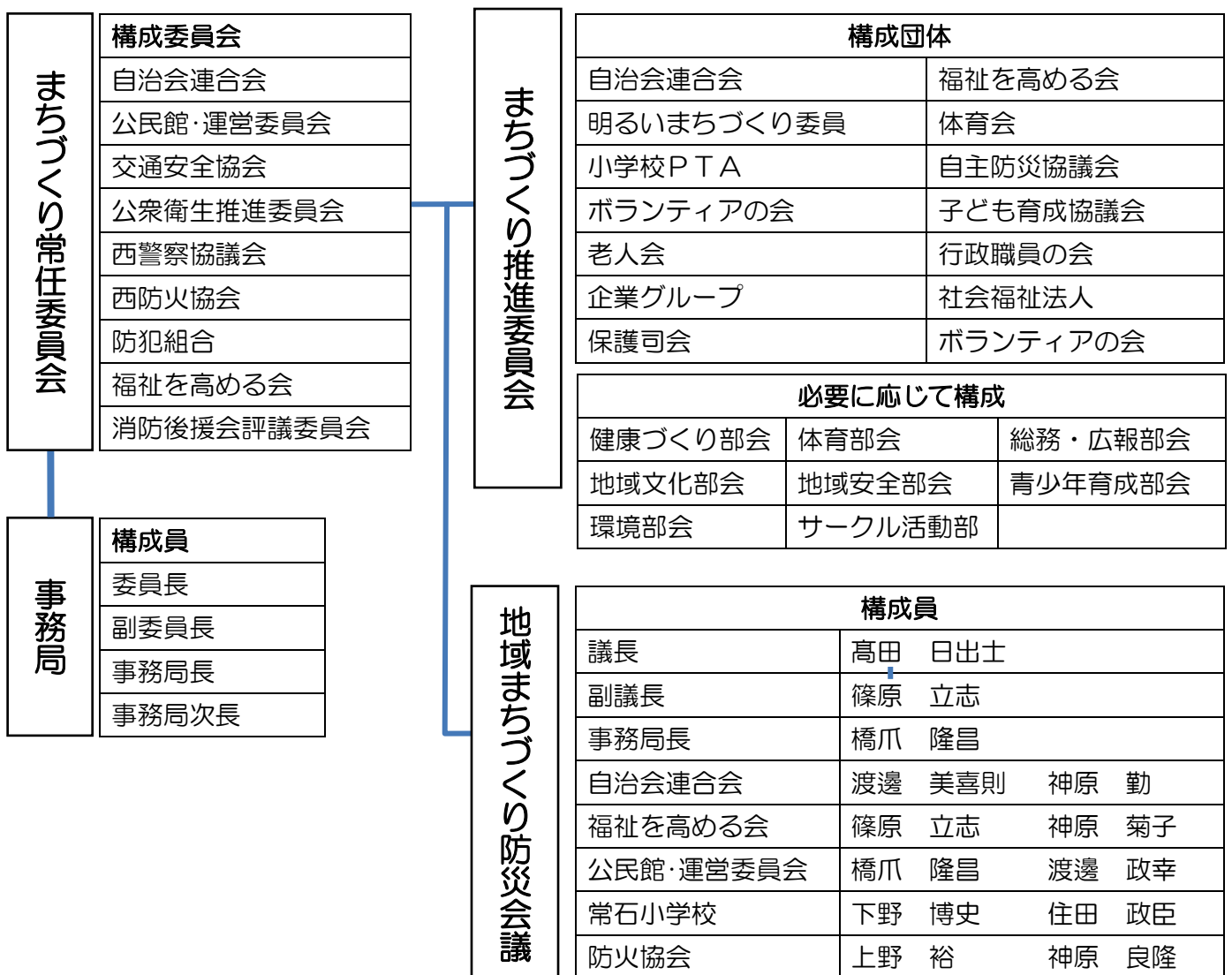
場 所 常石ふれあい公園・常石公民館・沼隈ふれあいプラザ
中組集会所・西組会館の5カ所で同時刻に実施

- 内 容
- ・防災津波避難訓練
 - ・高台にある避難所に集合
 - ・参加人数確認
 - ・日常用意するものなどの心構えの伝達
 - ・炊き出し非常食などの実施
 - ・テント, コンテナなどを用意・設置

6. まちづくり計画の推進体制

地域の自治組織を強化し、協働のまちづくりをめざす

過去に常石学区自主防災協議会を発足して今日まで歩んできましたが、委員は各自治会の会長が多く、活動は年に数回まちづくり常任委員会で議題にあがる程度で遅々として進みませんでした。今回の「地域まちづくり計画」の策定及び計画の実施にあたり、新たに常石学区まちづくり推進委員会に「常石学区地域まちづくり防災会議」を次のとおり設置しました。



- ◆企画・原案はまちづくり事務局で立てる。(委員長, 副委員長, 事務局長, 事務局次長)
- ◆常石学区まちづくり常任委員会は毎月1日(日曜日の時は2日) 18:30 公民館図書室で行う。
- ◆常石学区まちづくり推進委員会は毎月1日(日曜日の時は2日) 19:30 公民館 2F 会議室で行う。

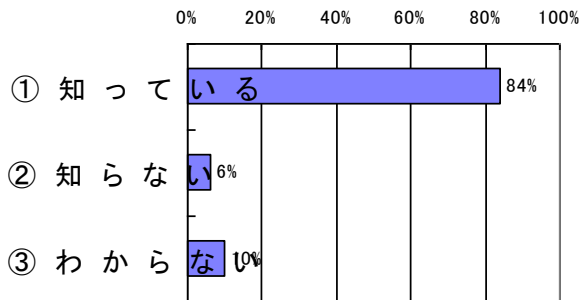
～ 資 料 ～

地震・津波に関するアンケート

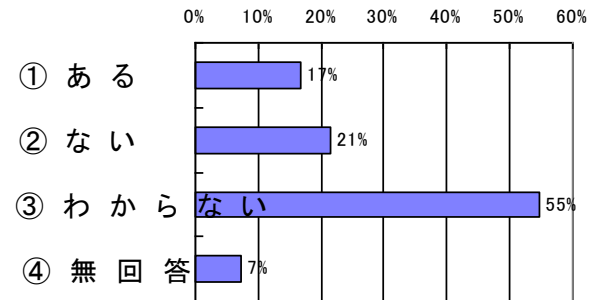
7. 資料：アンケート調査の結果（地震・津波に関するアンケート）

～地震について～

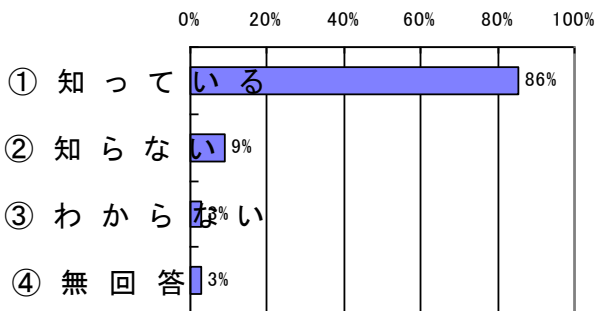
① 南海地震について知っていますか



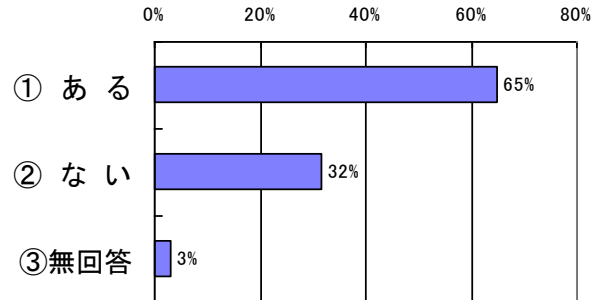
② 福山，沼隈町に地震(震度6～7度)があると思いますか



③ 阪神淡路大震災の死因の大半が圧死であったという情報を知っていますか

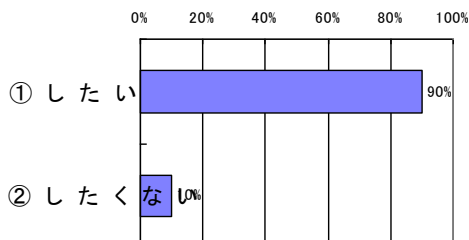


④ 自宅の寝室にタンス・本棚などが置いてありますか

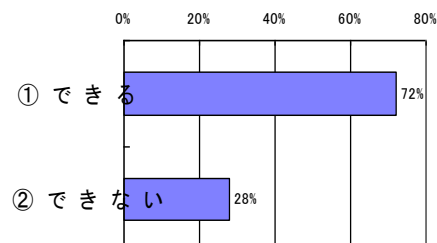


★4で家具があるとお答えになった方にお聞きします

⑤ 家具が倒れないようにしたいですか

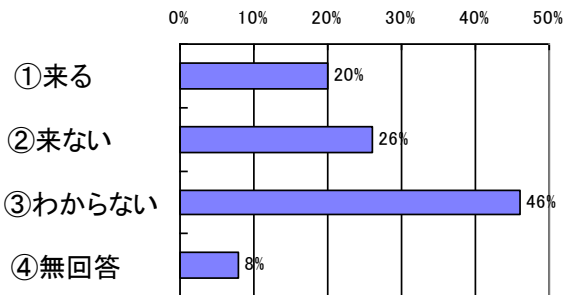


⑥ 自分で対策が出来ますか

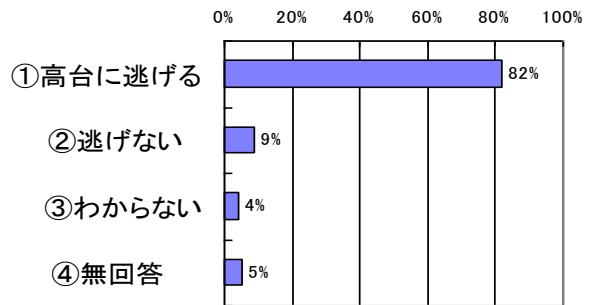


～津波について～

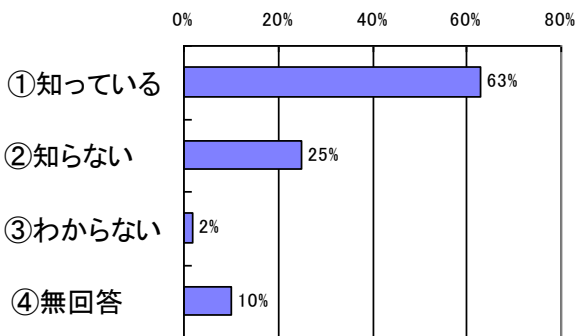
① 沼隈町に3m～5mの津波がおそってくると思いますか



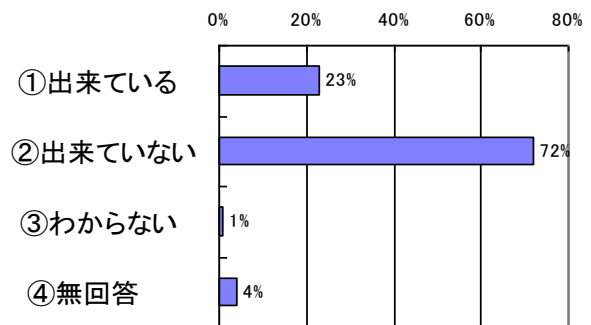
② 1時間後に津波が来るとの情報がでたらどうしますか



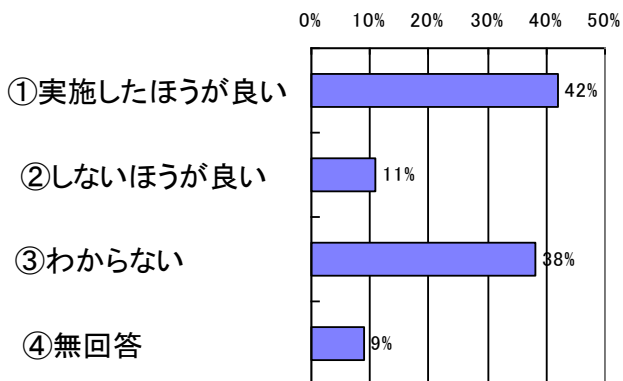
③ 地区の避難場所を知っていますか



④ 非難準備はできていますか（備蓄）



⑤ 避難訓練を実施したほうが良いですか



381件 回答

地震・津波に関するアンケート調査で出された意見

2013年(平成25年)9月5日

- ・ 地震はいつ来るかわからないので無駄なことだ。
- ・ 防災（地震，津波）の実感が，この地区では想定できない。もし現実的に事態が起きた場合，適切な情報と指示をお願いしたい。
- ・ 実感としてまだ現実が分からない。いずれ有るかも知れないと思いつつ準備はできていない。もしあった場合，今住んでいる所がどの位危険なのか，教えて頂きたい。
- ・ 予告なしで，突然におこることなので一度でも良いから訓練を実施して欲しい。もし，訓練をするのなら参加したい。
- ・ 津波の前に地震に耐えられなくて社宅が崩れないか心配。
- ・ いつ来るかわからないけど，しっかり色々な物を準備しとかないといけないと思う。
- ・ とても怖い。

- ・ 瀬戸内海は波が穏やかだから，地震プレートの大きいのが走っていないから地震は来ないと思う。
- ・ あまり考えたことがない。
- ・ 実際に起きた事が無いので，考えられない，大きな地震，津波が無いと思うが，避難場所をはっきり定め誰でも分かり易くする。
- ・ 実際に遭遇していないので実感出来ない。訓練はしていた方が良いと思う。
- ・ 高台の場所が分からない。
- ・ 家が壊れたりして後の住居はどうなるか心配。
- ・ 津波よりもこの団地が地震に耐えられるか心配。
- ・ 不安に思う。
- ・ 来て欲しくない。
- ・ 地震，津波は一瞬にして何人もの命を奪う。大変恐ろしいと思う。
- ・ 避難場所などのポスターを冷蔵庫に貼れる物などを作って欲しい。（子ども，老人が分かりやすい物）
- ・ 情報の伝達の正確さ情報のネットワーク化（各自治会との連携）避難時の物資の提供（孤立時の対応）をして欲しい。
- ・ 防災について，地域で話し合う事はとても大切なことだと思う。

- ・ 今までに、一度もあった事が無いので分からない。
- ・ 避難場所が分からない、常石全体での訓練は必要。いざと言う時に自分が如何すれば良いか分かる様にしてほしい。
- ・ 災害に備えて準備をしておきたい、すべて持って行かれる恐れがある事を認識しておく。
- ・ 被害が拡大する原因は慣れと想定外という事なので、常にもしかしたらと考えるて行動するべきだと思う。
- ・ 母方の実家が宮城県にあり、陸部に位置しながら、かなりのダメージを受け、数日間は物資も届かず外部との連絡も取れず大変な思いを強いられた。とても他人事とは思えなかった。
- ・ 情報を早く正確に流す方法を考えてほしい。町内アナウンスが聞き取りにくい所が沢山ある。早く直してほしい。市と町でのライフラインは確保出来ているか不安。
- ・ 瀬戸内海では津波は考えにくい、急がずに正確な情報が欲しい。
- ・ 自然災害なので、無いことを願う事のみです。
- ・ 地震はいつ来るか分からないだけに、怖いと思う。
- ・ 出来たら、来ない方が良いと思う。でもテレビを見ると来るような気がする。
- ・ 日本に住んでいる以上地震は良くある。津波は東北のものを見て怖いと思った。他県で地震があると注意報など良く見るようになった。
- ・ 家は高台にあるので、津波の心配より土砂崩れの方が心配。特に山津波が心配。
- ・ 恐怖心を抱いている。対策が必要だと思う。
- ・ 高齢者で歩行が困難な家族がほぼ毎日一人暮らししているので不安である。
- ・ 津波が常石に来る時間なるべく早く知りたい。3件あり
- ・ 地震・津波の時に、本当にしなければいけないことなど、体験者の話を聞くのも必要だと思う。
- ・ 日常の訓練と避難場所の確認をする必要性があると思う。
- ・ 避難場所が決まっていないと思うので逃げようがない。
- ・ 災害時の貴重品、食品、衣料品、懐中電灯等の準備をするよう市民に徹底的な指導が必要である。
- ・ 災害時の準備はしている。

- ・ 地震，津波が起きないように願う。高い所に家があるから津波の心配はしていない。 3件
 - ・ 天災は何時起きるか分からない，裏山が心配。
 - ・ 津波とか棚が倒れるのも怖い，後ろの東山が崩れるのを心配である。
 - ・ 地震で裏の畑が崩れるか心配。大きな地震が発生した場合，裏の崖が崩壊しないか心配。
 - ・ 両隣の安否を知り，避難所へ伝える。
 - ・ 災害の程度にもよるが，自分の安全を確保したうえで出来れば救助活動したい。
 - ・ 高齢なので急ぐ事の不安がある。
 - ・ 避難訓練は必要だと思う。
 - ・ 大多数の弱者の多くは自力での避難は不可能。また車の移動は難しいと思われる。
-
- ・ このようなアンケートはパフォーマンスだけでやっているように思う。
 - ・ 本気で考えているならせめてクラブに布団や食事が作れる器材を置くことを考えるのが先ではないかと思う。
 - ・ 避難生活をするようになった場合，寝具類や食事を作る器材等は何処にあるか？
 - ・ 一番大事なそのことをさておいてこのようなアンケートをとってもまったく意味がないと思う。地震については古い家なので心配。津波については大丈夫と思う。
 - ・ 迅速な情報が出せる体制作りをお願いしたい。
 - ・ 避難生活が送れるような，寝具や食事を作る鍋，釜を用意して欲しい。
 - ・ 一時でも早く情報を知る必要がある。テレビ，ラジオ，市の情報には十分気を付ける。
 - ・ 避難場所に行くより「とんど」をする田に行く方が良いと思う。避難場所に行く途中道が悪いし遠回りすると，瓦が落ちてくる可能性がある。

- ・ 福山に3～5mの津波，震度6～7等は来ないと思う。これがいわゆる俗説だと思う。
- ・ 常石はたいした事はない，俗説だと思う。
- ・ 常石に津波は来ないと思う。しかし，豪雨が降ると大越，根引，東，中，西，の一部は家屋が流される恐れがあると思う。
- ・ 高台に家が有るので良くわからない。
- ・ 家にいる時は，高台なので大丈夫だが，出かけている時に来たら，あわてると思います。（車の渋滞等）
- ・ 津波警報をどのようにして市民に伝えるか，まず津波について誰がどこから情報を出すか確認してほしい。
- ・ 過去のこの地区の地震，津波の規模を示す文献や調査をして欲しい。
- ・ 大きな地震で電気も遮断された時の情報は，どこから収集したらよいか教えてほしい。
- ・ 時々地震，津波について情報を伝えればいざという時に行動が出来るのではと思う。
- ・ 大きな津波が来たら高台に避難する。
- ・ 地元消防団を中心に訓練をして欲しい。高齢者に対する避難の方法を考えるとよい。
- ・ 知ったら早く逃げる。
- ・ 避難場所までの道が安全か確認する事が大切だと思う。
- ・ 主催者の指示にしたがい，行動をする。
- ・ 災害は何時来るか分からない。地震だけでなく経験のない，雨等々どんな事が起きるのか先が分からない。貴重品などを各自で用意して，避難訓練を是非やって欲しい。
- ・ 年1回は訓練をしましょう。
- ・ 恐怖を感じる。家族との連絡手段を確認するべきだと思う。
- ・ テレビで情報を聞いたら早めに避難をするようにする。避難場所を考えて置く事。
- ・ テレビ，ラジオ等で正しい情報を入手しそれによって正しい行動をして欲しい。

以上

常石学区地域まちづくり計画



2014年（平成26年）3月

福山市常石学区まちづくり推進委員会